

取扱説明書

この度は、弊社製品をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。
製品を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書をかならず
お読みください。また、ご使用いただく際にはかならず携帯していただくか、
いつでも確認できる所に保管してください。

製品に関して不明な点や不都合なことがございましたら、ご購入販売店もしくは
弊社お客様相談窓口へご連絡ください。



目次

製品の特徴・使用目的	1 P
ご使用前の点検	1～2 P
ご使用上の注意	2～7 P
お手入れ方法	8 P
保管方法	8 P
各部の名称と製品仕様	9 P
車いすの使用方法	
1) 車いすの組み立て方	10 P
2) シートとレッグサポート(足ベルト)の取付方法	11 P
3) フットサポート(足乗せ)の使用方法	11 P
4) 駐車用ブレーキの使用方法	12 P
5) ハンドブレーキレバーの使用方法	12 P
6) シートベルトの使用方法	13 P
7) 車いすの折りたたみ方	13 P
車いすの操作方法	14 P
駐車ブレーキの調整方法	15 P
ハンドブレーキの調整方法	15 P
故障かな？と思ったら	16 P
保証書	

製品の特徴・使用目的

この車いすは、自身でハンドリムを駆動して操作する**1人乗り用 手動・自走式車いす**です。ハンドブレーキ、シートベルトが付いていますので、介助用に使用することもできます。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背もたれ）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回など）などの機構がない標準型の自走用車いすで、スポーツ用、入浴用などの特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になった場合などは、標準型が使用に適さなくなることがあります。

自走用 標準型

一般的に用いる自走用車いすで、後輪にハンドリムを装備し、バックサポート（背もたれ）の種類は固定式、着脱式、折りたたみ式およびそれらと同等の方式であり、特別な座位保持具はつかず、任意にバックサポート（背もたれ）角度が変えられないもので、前輪はキャスタ、後輪は大径（※）車輪の4輪で構成したものです。

介助用 標準型

一般的に用いる介助用車いすで、特別な座位保持具やハンドリムはなく、バックサポート（背もたれ）の種類は固定式、着脱式、折りたたみ式およびそれらと同等の方式であり、任意にバックサポート（背もたれ）角度が変えられないもので、前輪はキャスタ、後輪は中径（※）以上の車輪で構成したものです。

※大径とは呼び18(外径が約476mm)以上のタイヤ大きさを、中径とは呼び12(外径が約310mm)以上18未満のタイヤ大きさをいう。

ご使用前の点検

安全のために、車いすを使用する前にはかならず各部を点検してください。
異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、ご購入販売店または弊社
お客様相談窓口へご連絡ください。

1. 各部の留め金具（ネジ・ナットなど）を確認してください。
 - ・ネジがゆるんでいる所、脱落している所はありませんか？
2. ブレーキを確認してください。
 - ・ハンドブレーキ、駐車用ブレーキをかけたときには、後輪の回転がしっかり止まりますか？解除の際は後輪がスムーズに回転しますか？
 - ・各ブレーキ本体にがたつきはありませんか？
3. 車輪を確認してください。
 - ・がたつきはありませんか？リムに振れ・変形がなく、スポークに曲がりや折れはありませんか？
4. タイヤを確認してください。
 - ・亀裂や穴・傷はありませんか？また表面の溝は十分残っていますか？
 - ・タイヤは、表面の溝が無くなる前に交換してください。
5. 座面を確認してください。
 - ・座面に傷やたるみはありませんか？
6. アームサポート（肘掛け）を確認してください。
 - ・がたつきがなく、車体にしっかりと固定されていますか？
7. バックサポート（背もたれ）を確認してください。
 - ・バックサポート（背もたれ）に傷やたるみはありませんか？
 - ・左右のロックピンが確実に穴の中に入っていて、背折れ部分がしっかりと固定されていますか？

 P10「車いすの使用方法 1) 車いすの組み立て方」参照。

ご使用前の点検

8. レッグサポート（足ベルト）、フットサポート（足乗せ）を確認してください。

- ・レッグサポート（足ベルト）は、しっかりと取り付けられていますか？
- ・フットサポート（足乗せ）の向きは適正ですか？がたつきがなく、車体にしっかりと固定されていますか？

 P11「車いすの使用方法 3)フットサポート（足乗せ）の使用方法」参照。

9. 車いす全体を確認してください。

- ・車輪は4つとも接地していますか？
- ・全体にがたつきはありませんか？きちんと折りたためますか？
- ・平らな場所で、左右均等な力で前へ押したあと、まっすぐに進みますか？
- ・ブレーキワイヤーは部品等に引っかかかっていませんか？また、切れていませんか？
- ・異音はしませんか？

● 車いすを長くお使いいただくためには、定期的に販売店の点検を受けられることをおすすめいたします。

● ハンドブレーキワイヤーは、1年に1度交換してください。

ご使用上の注意

車いすを安全に使用していただくために重要な内容です。よくお読みになり、内容をかならず守って正しく取り扱ってください。

表示
マーク
の
説明



警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。



注意

内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があることを示します。



してはいけない「**禁止**」内容であることを示します。



かならずしていただく「**強制**」内容であることを示します。

ご使用の際は



警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。



加工・改造は絶対にしないでください。
故障や事故の原因になることがあり大変危険です。



分解・修理は弊社サービス員以外行わないでください。



この車いすは1人用です。絶対に2人以上で乗らないでください。
介助者であっても、一緒に乗らないでください。転倒、破損するおそれがあります。



手押しハンドルに寄りかからないでください。
また、背ポケットには1kg以上の荷物を
入れないでください。
バランスを崩し、転倒するおそれがあります。



ご使用の際は



警告

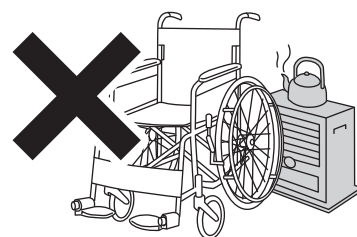
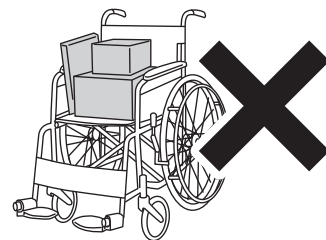
内容を守らず誤った使い方をする、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

❌ 座面以外の部分に座ったり、座面に立ちあがったりしないでください。
転倒、破損することがあります。

❌ 車いす以外の用途に使用しないでください。
シルバーカーとして使用したり、台車として物品運搬などに使用したりしないでください。

❌ 車いすを火気に近づけたり、高温になる場所に放置しないでください。
変形・火災の原因になることがあります。

❌ 付属品の工具は、指定の箇所以外には使用しないでください。
故障の原因になることがあります。



❗ 部品の破損など異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、ご購入販売店または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。

❗ 車いすの各部が確実に組み立てられていることを確認してください。
📖 P10「車いすの使用方法 1) 車いすの組み立て方」参照。

❗ ハンドブレーキ、駐車用ブレーキの効き具合をかならず確認してください。

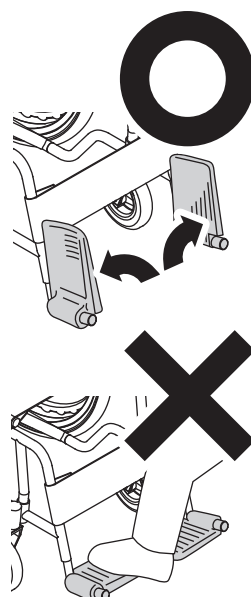
❗ 最大使用者体重（積載物を含む）をかならず守ってください。
📖 P9「各部の名称と製品仕様」参照。

❗ 搭乗者は、かならずシートベルトを締めてください。

❗ 車いすに乗り降りするとき、一時停止するときは、
① 平らな場所でかならず左右の駐車用ブレーキをかけ、車いすが固定されていることを確認してください。
② かならずフットサポート（足乗せ）をあげてから乗り降りしてください。
フットサポート（足乗せ）の上に立つと、車いすごと転倒するおそれがあり大変危険です。

③ 車いすが不安定になりやすいので、かならず2名以上の介助者が付いてください。

❗ 立ち座りは、ゆっくりと行ってください。
勢いよく立ちあがったり座ったりすると、バランスを崩して転倒するおそれがあります。



ご使用の際は



注意

内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があります。

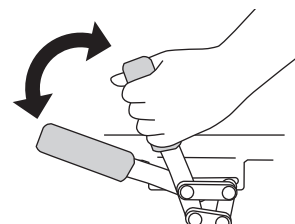
- ❌ 手押しハンドルや、バックサポート（背もたれ）折りたたみレバー、駐車用ブレーキなどの操作レバーに重い荷物を吊りさげないでください。
転倒したり、部品が変形・破損することがあります。

- ❌ 子供に使用させたり、遊ばせたりしないでください。

- ❌ 各種シートは、必ず専用のシートを使用してください。

- ❌ 車いすを放り投げたり、高い場所から落とすなどの衝撃を与えないでください。

- ❗ 駐車用ブレーキはかならず手で操作してください。
また、作動方向以外に力を加えないでください。
部品が変形したり破損することがあります。



- ❗ 車いすを使用中は、安定した姿勢を保ってください。
座面の中央に深く腰かけてください。

- ❗ ご使用前には、毎回かならず各部を点検してください。
📖 P1～P2「ご使用前の点検」参照。異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、ご購入販売店または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。

- ❗ 車いすにバリやするどい突起などがないか確認してください。
衝突などにより、車体にバリやキズが発生することがあります。ケガをするおそれがありますので注意してください。

- ❗ 認知症の方が使用される場合は、かならず介助者が付き添ってください。
予測できない行動で危険を招くことがありますので十分注意してください。

走行中は



警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

- ❌ 走行中に身体を乗り出さないでください。
また、身体を大きく前傾させないでください。
バランスを崩して車いすごと転倒するおそれがあり、大変危険です。段差や凹凸のある路面を走行する際も、身体が前のめりにならないように注意してください。



- ❗ 道路を通行する際は、かならず右側を通行してください。歩道がある所では歩道を通行してください。
かならず道路交通法規を守ってください。道路交通法規を守らず使用すると、交通事故の原因となったり、本製品の保証範囲外となる場合があります。

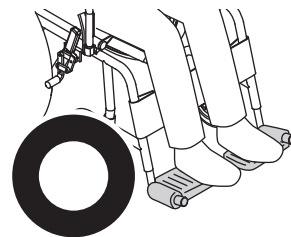
走行中は

！ 警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

- ！ 走行中はかならず足をフットサポート（足乗せ）の上に
乗せてください。

足を地面につけたりフットサポート（足乗せ）からはずすと、
フットサポート（足乗せ）と地面の間に足が巻き込まれて、ケガを
するおそれがあり危険です。搭乗者が靴をはいていない場合は、
壁などに当たらないよう十分に注意してください。



- ！ 坂道では、十分に注意して走行してください。

車いすが予想外の方向へ進む、また身体が不安定になるなど、大変危険です。

！ 注意

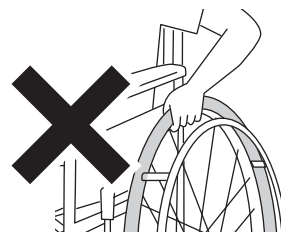
内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があります。

- ⊘ タイヤを持って車輪を操作したり、回転している
車輪に指などを入れないでください。

ケガをするおそれがあり大変危険です。

- ⊘ 片手のみで操作しないでください。

バランスを崩すことがあり危険です。



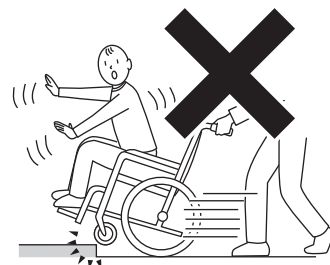
こんなとき、こんな場所では

！ 警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

- ⊘ 段差を無理に乗り越えようとししないでください。また、
絶対に勢いをつけて乗り越えないでください。

🗨️ P14「車いすの操作方法 段差のある場所では」参照。
転倒したり、車いすが破損することがあります。一旦停止して
からティッピングレバーを使用して乗り越えてください。



- ⊘ 以下のような場所、状況では使用しないでください。

- ・ 崖の近くや河川の堤防、防波堤、フタのない側溝付近など転落のおそれがある所
- ・ 砂利道、ぬかるみなど走行が困難な所
- ・ 雨・雪・凍結などで滑りやすい所
- ・ 夜間、濃霧、強風などで見通しが悪い場合
- ・ その他危険が予想される場合

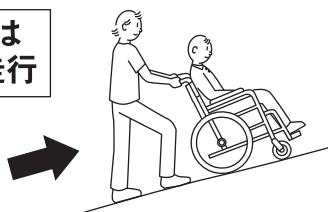


- ！ 車いすで急な坂道の上り下りをするときは、かならず介助者が支えてください。

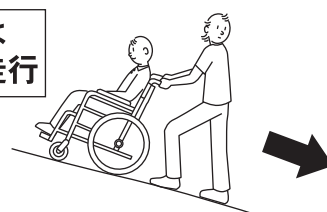
🗨️ P14「車いすの操作方法 坂道では」参照。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。下り坂を前向き
で下りると、搭乗者が前へずり落ちたり、スピードが出やすいなど、非常に危険です。
また、介助者がバランスを失うおそれがあります。

上り坂は
前向き走行



下り坂は
後ろ向き走行



こんなとき、こんな場所では



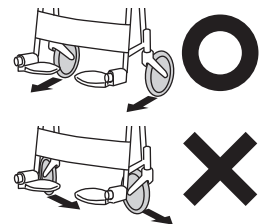
警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。



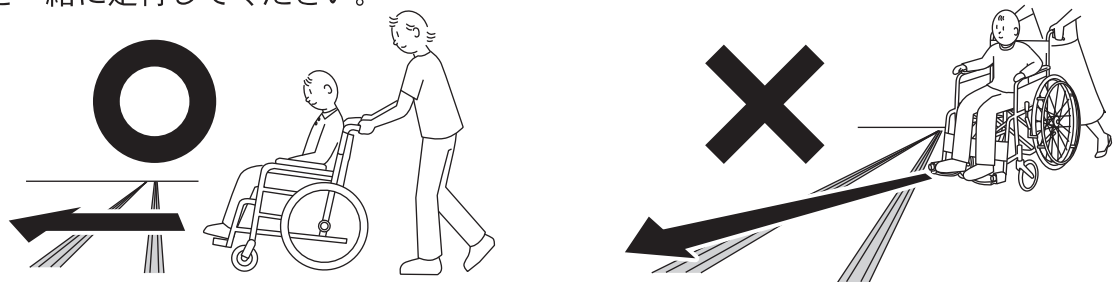
発進するときや、段差を乗り越えるときには、キャスト（前輪）のタイヤがまっすぐになっていることを確認してから走行してください。

キャスト（前輪）が斜めになった状態で発進したり、段差に斜めに進入すると、段差を乗り越えられなかったり、キャスト（前輪）が破損して事故の原因となるおそれがあります。



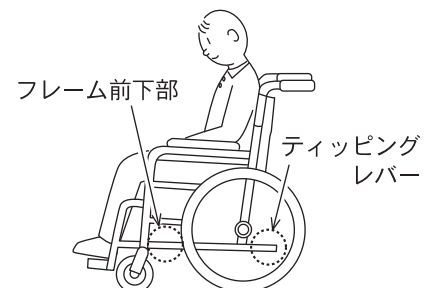
踏切を渡る、溝を越える、エレベータの乗り降りなどの際は車輪が溝に対して直角になるように走行してください。

斜めの角度で進入すると、車輪が溝にはまることがあり、大変危険です。また、かならず介助者と一緒に走行してください。



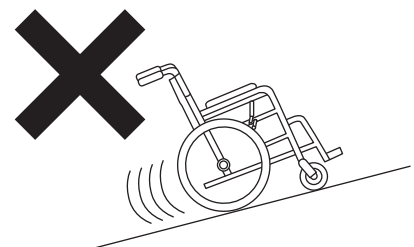
車いすに人を乗せたまま持ち上げる場合は、駐車ブレーキをかけ、フレーム前下部とティッピングレバーを3～4人でしっかり支えてください。

手押しハンドルやアームサポート（肘掛け）、また可動部は持たないでください。転倒、破損することがあります。



以下のような場所、状況では十分に注意して走行してください。

- ・坂道や踏切、溝や段差、地面に凹凸のある所
- ・車いす対応の乗り物やエレベータの乗り降り
- ・交通量の多い所、混雑している所や狭い道
- ・その他危険が予想される場合



坂道では駐車しないでください。

ブレーキをかけていても車いすが動く場合があり、大変危険です。

こんなとき、こんな場所では



注意

内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があります。



以下のような場所には放置しないでください。

- ・坂道、車道に近い所、人通りのある所
- ・段差や凹凸のある路面
- ・非常口、消火器、消火栓のそば
- ・直射日光のあたる所、火気などで高温になる所、湿気の多い所
- ・風雨のあたる所、潮風のあたる所、暑い日や寒い日の屋外
- ・ほこりの多い所
- ・子供がいたずらをするおそれのある所



車いすを使用して飛行機にご搭乗される場合は、事前に利用予定の航空会社にご相談ください。

介助者の方へ



警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。



車いすの操作方法をよく理解し、取扱いに十分慣れた状態で介助をしてください。



注意

内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があります。



車いすに乗って介助しないでください。



背ポケットに 1 kg 以上の重さの荷物を入れたり、車体に荷物を吊り下げたりしないでください。



ご使用前には、毎回かならず各部を点検してください。

 P1～P2「ご使用前の点検」参照。異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、ご購入販売店または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。



以下のような場所、状況ではかならず介助者が付き添ってください。

- ・急な坂道
- ・地面に段差や凹凸のある所
- ・踏切の横断、車いす対応の乗り物やエレベータの乗り降り、溝のある場所
- ・その他危険が予想される場合



使用中は常に、搭乗者の姿勢や状態に注意を払ってください。

- ・身体の一部や衣類が、タイヤ・スポーク・キャスト（前輪）などにはさまらないように、また地面・建物・通行者などに触れないように注意してください。
- ・搭乗者が安定した姿勢を保っていることを確認してください。

お手入れ方法

〈フレーム・車輪等の金属部分〉

- 雨などで濡れたときは、乾いた布で拭き取ってください。
- 泥やほこりがついたときは、乾いた布でよく拭き取ってください。
- ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を使用して拭き取り、その後水拭きで洗剤を落としてから、乾拭きしてください。

〈プラスチック部分〉

- 水拭きのあと、乾拭きしてください。ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を使用して拭き取り、その後水拭きで洗剤を落としてから、乾拭きしてください。

〈生地部分〉

- 水またはぬるま湯につけた布で拭き、その後よく乾かしてください。ひどい汚れは、薄めた中性洗剤をつけた布で拭き、その後水拭きで洗剤を落としてから、よく乾かしてください。
- シミはスポンジや柔らかいブラシなどを使用して落としてください。

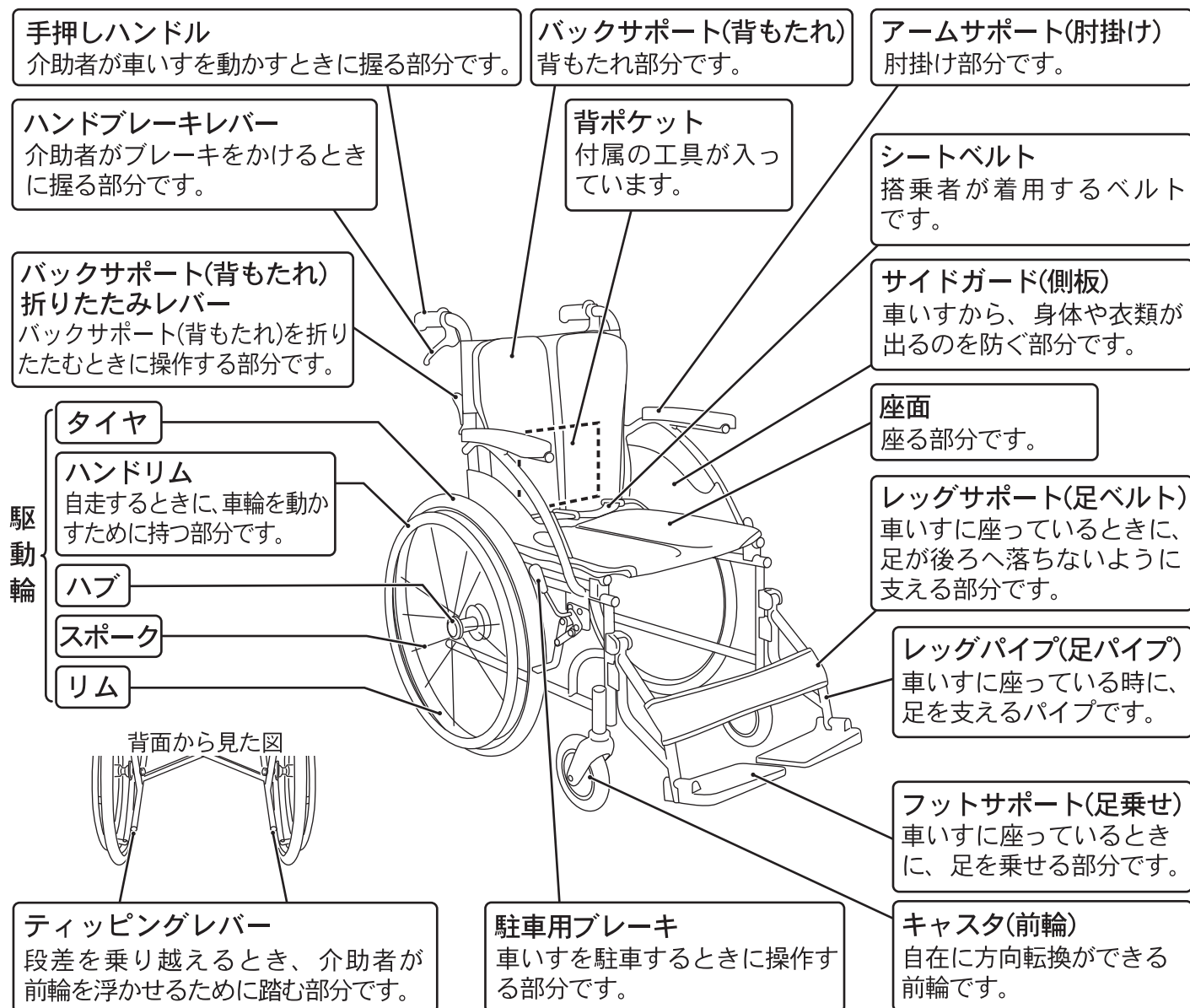
⚠ 注意

- 熱湯やオゾンで消毒しないでください。
- 塩素系洗剤・シンナー・クレゾール・アルコール類などは使用しないでください。
- たわしなどの固いブラシおよびみがき粉などは使用しないでください。

保管方法

- 屋内で保管してください。また、長期間使用しないときは、汚れを落としてから保管してください。
- 雨ざらしになる場所、また高温多湿な場所では保管しないでください。故障や変形の原因となります。

各部の名称と製品仕様



<イメージ図>



組み立て寸法	全幅615×全長975×全高900mm	重 量	12.3kg
折りたたみ寸法	全幅360×全長780×全高700mm	最大使用者体重	100kg (積載物を含む)
ハンドル高さ	890mm		
座面高さ	475mm	本体材質	アルミニウム合金
座面寸法	幅430×奥行410mm	座面材質	ポリエステル
車輪寸法	前輪6インチ 後輪22インチ		

※各寸法・重量は参考数値です。

車いすの使用方法

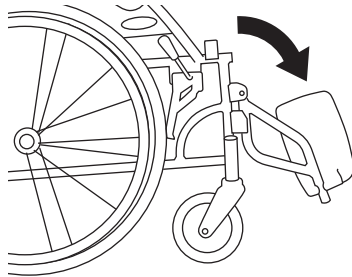
1) 車いすの組み立て方

⚠ 注意

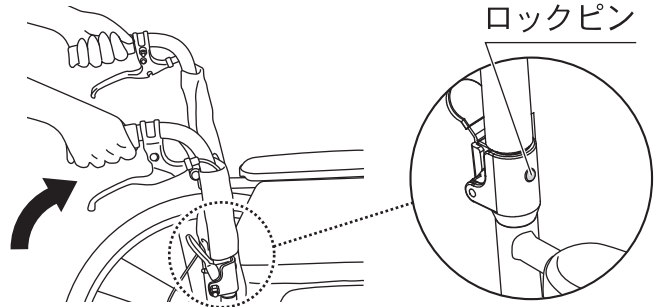
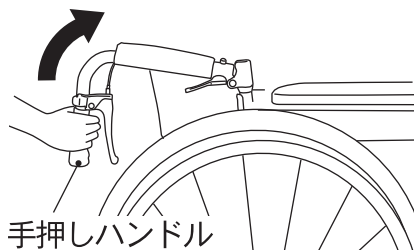
- 周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
- 指などをはさまないように注意してください。

1 駐車ブレーキ（P 12）をかけて、車いすを固定してください。

2 レッグパイプ（足パイプ）をおろしてください。

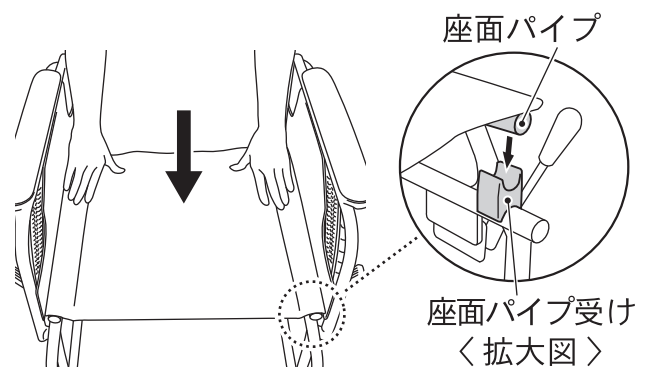
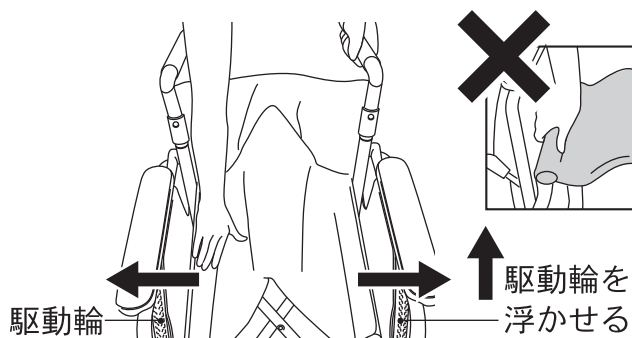


3 手押しハンドルを矢印の方向に持ちあげて、カチッと音がするまで強くはめ込んでください。



4 片側の駆動輪を少し浮かせて、駆動輪を浮かせていない側の座面の表面を手の平で押して開いてください。
※座面パイプを握らないでください。

5 両端の座面パイプが、座面パイプ受けの上にのるように押してください。



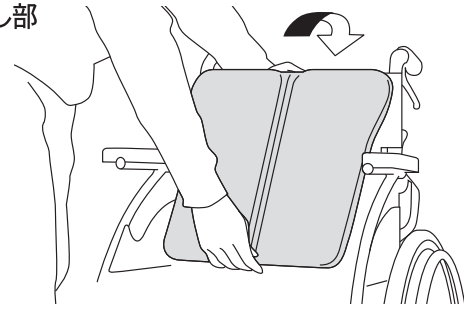
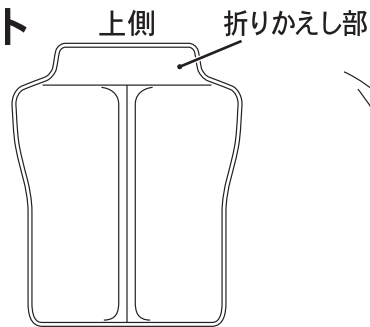
⚠ 注意

- 絶対に座面パイプの下に手を入れないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。
- 座面パイプが、座面パイプ受けの上にのっていることを確認してください。
- 左右の手押しハンドルのロックピンが確実に穴の中に入っていて、ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。
- 座面にシートベルトが絡まっていないか確認して座面を広げてください。

2) シートとレッグサポート（足ベルト）の取付方法

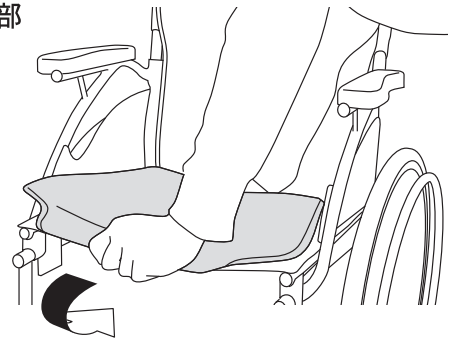
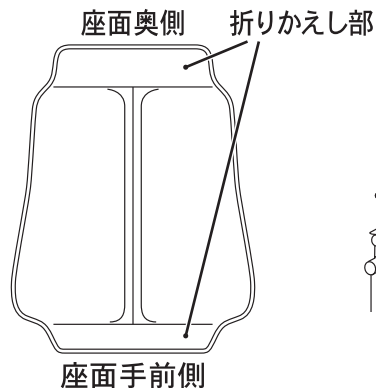
バックサポート（背もたれ）用シート

折りかえし部を背もたれの上部にセットし、面ファスナーでしっかり取りつけてください。



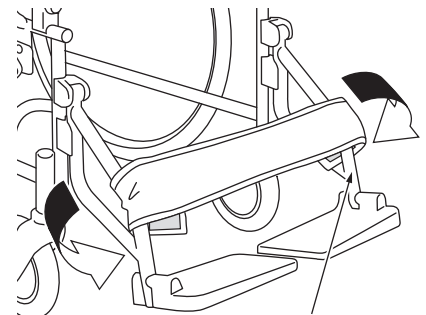
座面用シート

シートを座面にあわせて置き、折りかえし部を座面の裏へ折りかえし、面ファスナーでしっかり取りつけてください。



レッグサポート（足ベルト）

レッグパイプ（足パイプ）に巻きつけ、面ファスナーで片方ずつしっかり取りつけてください。



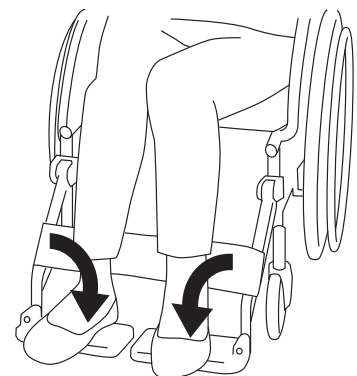
レッグパイプ（足パイプ）

⚠ 警告

- シートの加工や改造を行わないでください。
安全性の低下、または強度や耐久性が低下し危険です。
- シート部分を火気に近付けないでください。火災の原因となります。

3) フットサポート（足乗せ）の使用方法

搭乗者が車いすに乗車後、フットサポート（足乗せ）をおろしてください。

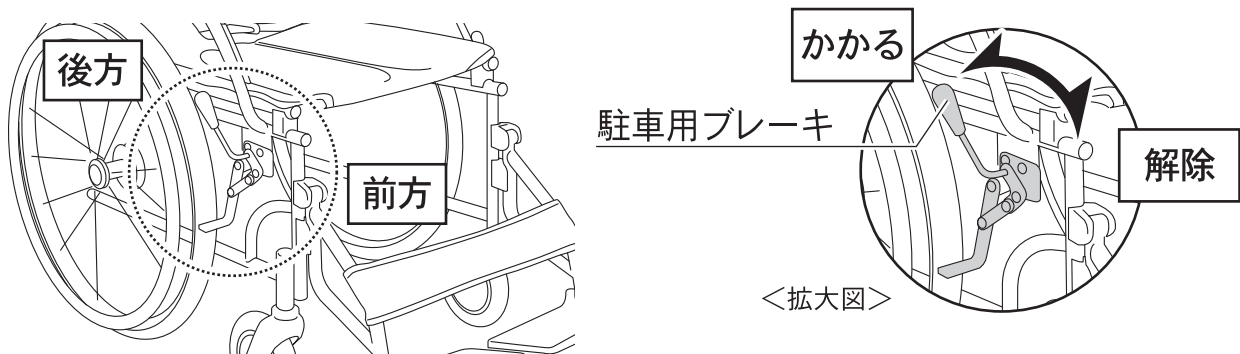


⚠ 警告

- 乗り降りの際は、フットサポート（足乗せ）の上に乗らないでください。

4) 駐車用ブレーキの使用方法

駐車用ブレーキを後方に引くと駐車ブレーキがかかり、前方に倒すと解除されます。

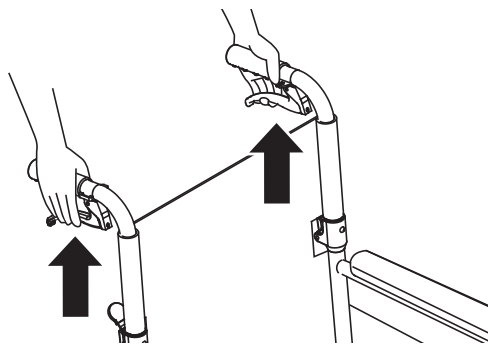


⚠ 注意

- 車いすに乗り降りするとき、一時停止するときは、かならず左右の駐車用ブレーキをかけ、車いすが固定されていることを確認してください。
- 駐車用ブレーキは、車いすの停車時に車輪を固定するためのものです。走行中には使用しないでください。

5) ハンドブレーキレバーの使用方法

ハンドブレーキレバーを手押しハンドルと一緒に握るとブレーキがかかります。指を離すと解除されます。走行中や下り坂での速度調整に使用してください。

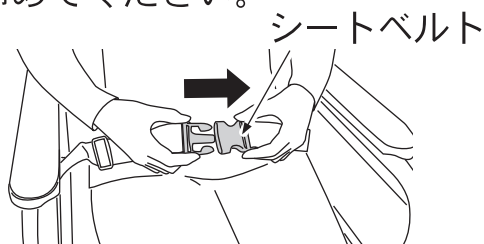


⚠ 警告

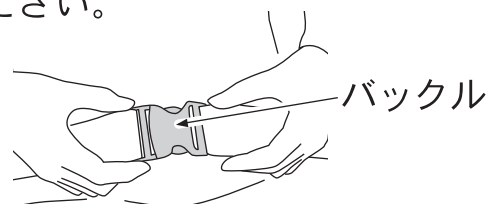
- ハンドブレーキは、介助者がかならず左右同時にかけてください。
- ハンドブレーキワイヤーは、1年に1度交換してください。

6) シートベルトの使用方法

- 1** 車いすに深く腰かけ、シートベルトを締めてください。



- 2** シートベルトがしっかりと締まり、バックルがはずれないことを確認してください。



- 3** 締め付けが弱い場合は長さを調節してください。締め付けが弱いと、身体が前のめりになったとき、車いすからずり落ちるおそれがあります。

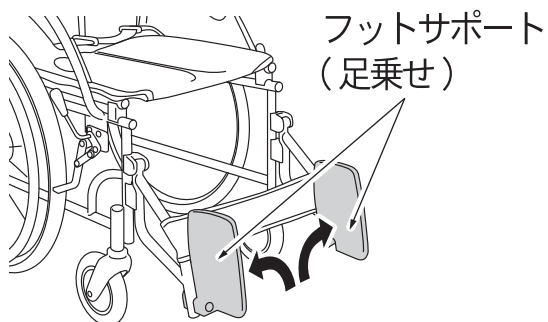
7) 車いすの折りたたみ方

⚠ 注意

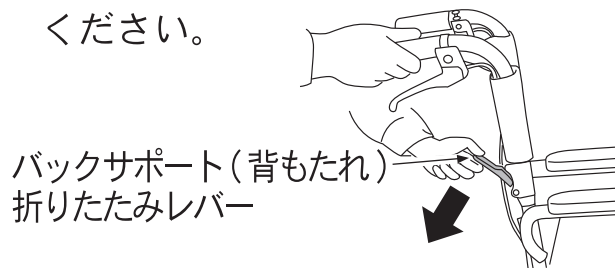
- 背ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
- 周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
- 指などをはさまないように注意してください。

- 1** 駐車ブレーキ（P 12）をかけて、車いすを固定してください。

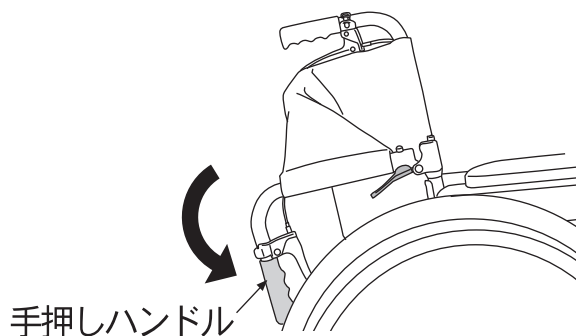
- 2** 左右のフットサポート（足乗せ）を矢印の方向へあげてください。



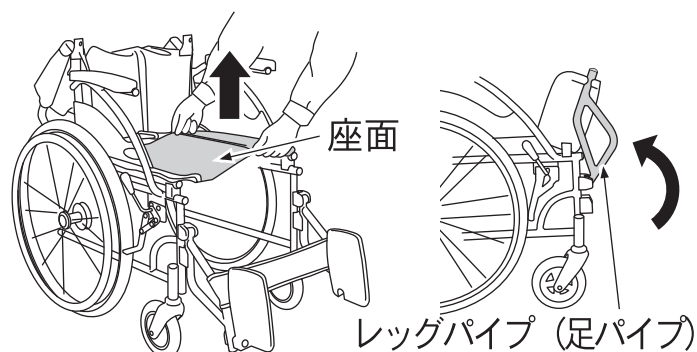
- 3** 手押しハンドルを片方の手で持ち、もう片方の手でバックサポート（背もたれ）折りたたみレバーを矢印の方向へ引いてロックを外してください。



- 4** 手押しハンドルを矢印の方向へ倒してください。もう片方も同じようにして倒してください。



- 5** 座面の前方と後方の中央部分を上へ同時に持ち上げ、左右のアームサポート（肘掛け）を中央へ寄せてください。レッグパイプ（足パイプ）はコンパクトに折りたためます。



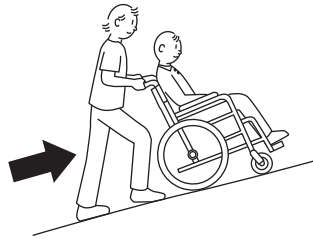
車いすの操作方法

坂道では

車いすで急な坂道の上下りをするときは、かならず介助者が支えてください。
坂道を上るときは前向きで、下りるときは後ろ向きで走行してください。

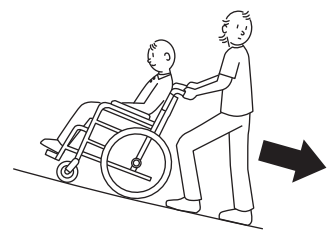
上り坂は 前向き走行

介助者は、身体を少し前へ倒しながら、押し戻されないように進んでください。



下り坂は 後ろ向き走行

介助者はハンドブレーキを使いながら、後方に注意し、後ろ向きにゆっくりと進んでください。

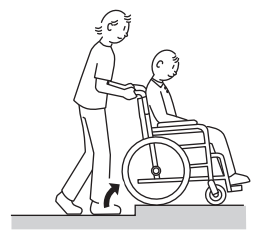
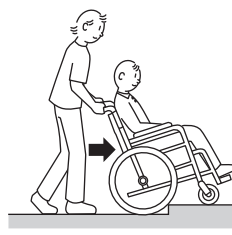
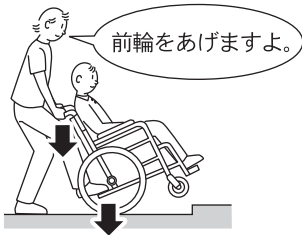


段差のある場所では

無理に乗り越えようとしたり、勢いをつけて押したりしないでください。
段差の前ではかならず一旦停止し、搭乗者に声をかけてから操作してください。

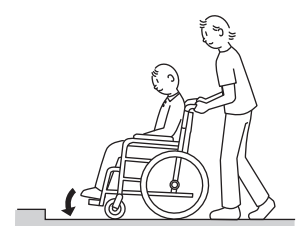
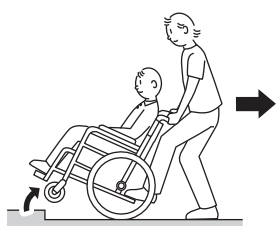
上るとき

- 1 介助者がティップングレバーを踏みながら手押しハンドルを押しさげ、前輪を浮かせる。
- 2 前輪を段差に乗せ、後輪が段に当るまで、ゆっくり前へ進む。
- 3 後輪の回転を利用して持ちあげ、段の上にあげる。



下りるとき

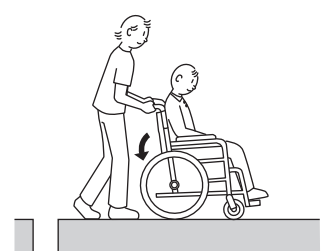
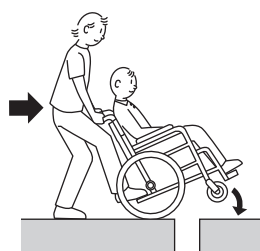
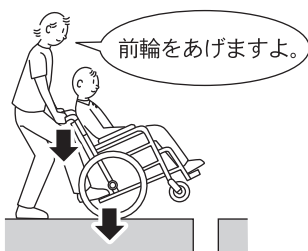
- 1 後ろ向きになり、ゆっくりと後輪をおろす。
- 2 ティップングレバーを踏み、前輪を浮かせたまま後ろへさがる。
- 3 搭乗者の足が段に当たらないことを確認し、ゆっくりと前輪をおろす。



溝を越える場合

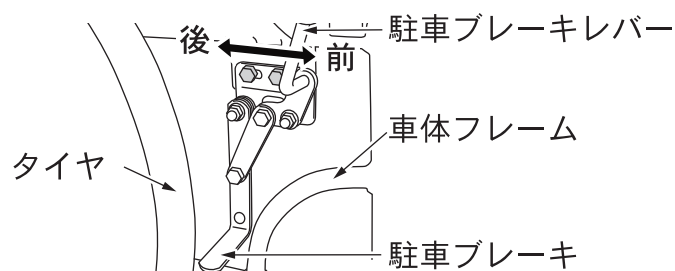
安全に渡ることができると判断した場合のみ、走行してください。
溝の前でかならず一旦停止し、搭乗者に声をかけてから操作してください。

- 1 介助者がティップングレバーを踏みながら手押しハンドルを押しさげ、前輪を浮かせる。
- 2 前輪をあげたまま前へ進み、溝の向こう側に前輪をゆっくりおろす。
- 3 後輪を持ち上げて前へ進み、溝を完全に越えた所で後輪をゆっくりおろす。

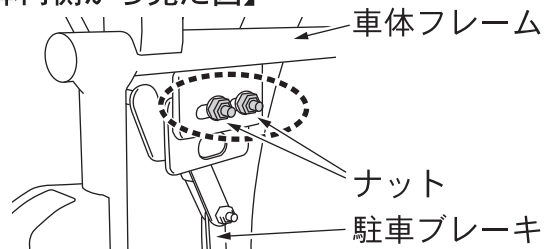


駐車ブレーキの調整方法

- 1 駐車ブレーキを車体フレームに取り付けている下図の点線で囲んだ2箇所のナットを反時計回りに回してゆるめ、駐車ブレーキの位置を前後にスライドし、ブレーキが確実にかかる位置に調整してください。



【車体内側から見た図】



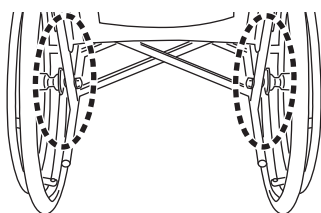
- 2 ゆるめた2箇所のナットを確実に締めてください。

！ 注意

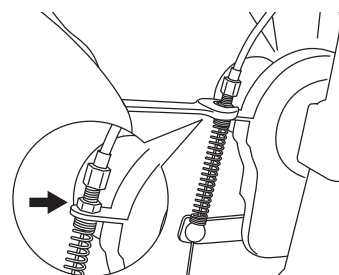
- 調整後、駐車ブレーキが確実にかかることを確認してください。
- 指などをはさまないように注意してください。

ハンドブレーキの調整方法

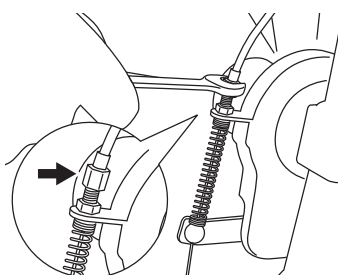
ハンドブレーキの調整は点線で囲んだ部分で調整します。



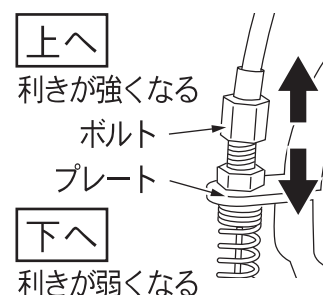
- 1 下のナットをスパナで反時計回りに回してゆるめます。



- 2 上のボルトをスパナで回して適切な位置に調整し、位置が決まったら下のナットをプレートの位置まで時計回りに回して固定してください。



ボルトが上へいくほど、ブレーキの利きが強くなります。ボルトが下へいくほど、ブレーキの利きが弱くなります。



！ 警告

- 搭乗者を乗せたまま調整を行うことは、絶対にしないでください。
- 調整には適切な工具をご使用ください。
- 調整を行った際は、ブレーキが正常に作動するかしっかり確認して、ご使用ください。不適切な調整の場合、ブレーキが作動せず転倒などの事故につながる恐れがあります。
- 改善等がみられない場合には使用を中止し、ご購入販売店または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。

！ 注意

- 調整を行う際は、タイヤやブレーキ等に指等をはさんでケガをしたりしないよう十分注意してください。
- 調整、メンテナンス等に不安がある場合や、ご自身で行うと危険がともなう場合などは、ご購入販売店または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。

故障かな？と思ったら



警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

- 異常がある場合は使用しないでください。
- 使用中に何か異常を感じたら直ちに使用を中止し、すぐにご購入販売店もしくは弊社お客様相談窓口へ連絡してください。
- 分解や改造はしないでください。分解・修理が必要なときはご購入販売店もしくは弊社お客様相談窓口へ連絡してください。

故障かな？と思うような現象が発生したら、修理を依頼する前にもう一度、下記の点を確認してください。

こんなとき	ここを確認	直し方
走行操作が重い	車輪やキャスト(前輪)に、毛髪・ビニールなどの異物が巻きついていませんか？	取り除いてください。
	駐車ブレーキがかかったままになっていませんか？	駐車ブレーキを解除してください。  P12「車いすの使用方法 4) 駐車用ブレーキの使用方法」参照。
まっすぐ走らない	キャスト(前輪)が片側だけ減っていませんか？	ご購入販売店、または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。
背折れ部のロックピンが入らない	バックサポート(背もたれ)の生地により、背もたれ部がひっぱられていませんか？	車いすを折りたたんだ状態で組み立ててください。  P10「車いすの使用方法 1) 車いすの組み立て方」参照。
ハンドブレーキが効かない	ワイヤーがねじれていませんか？	ワイヤーのねじれを直してください。
	ワイヤーがゆるんでいませんか？	ハンドブレーキを調整してください。  P15「ハンドブレーキの調整方法」参照。
駐車ブレーキが効かない	駐車ブレーキをかけたときに駐車ブレーキとタイヤはしっかりあたっていますか？	駐車ブレーキの位置を調整してください。  P15「駐車ブレーキの調整方法」参照。
	タイヤが磨耗していませんか？	ご購入販売店、または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。

上記の対処をしても良くならない場合、または現象に当てはまらない場合は、ご購入販売店または弊社お客様相談窓口へご連絡ください。

ココロ、ヨロコブ、テイコブ

Tacaof

製品の破損や異常を発見した場合は、直ちに使用を中止し、
ご購入販売店もしくは弊社お客様相談窓口へご連絡ください。
そのまま使用しますと、重大な事故につながる危険がございます。

※本製品をほかの方にお譲りになるときは、かならず本書もあわせてお渡してください。

保 証 書

お客さまの正常なご使用により万一不具合が発生した場合に、本書記載内容に従って無償修理いたします。かならず本保証書を製品と一緒にご提示ください。

1. この製品の保証期間はご購入いただきました日から1年間です。
2. ご贈答・ご転居などでお買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合は弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。
3. 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
4. 保証期間内において、部品や付属品の不具合が発見された場合は無償修理させていただきます。
5. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. 本保証書は明示した条件や期間において、無償修理をお約束するものです。保証書によってお客さまの法律上の権限を規制するものではありません。保証期間経過後の修理についてご不明の場合は弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。なお、製造が終了した製品については、修理必要部品の在庫がなくなった場合、修理ができないことがあります。

保証期間内でも下記の記載内容に該当する場合は無償修理対象外となり有償修理とさせていただきます。また、修理に要する送料などの諸経費はお客さまのご負担となります。

1. 保証書を紛失された場合、またはご提示が無い場合。
2. 本保証書の必要事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
3. お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障、または損傷が発生した場合。
4. 通常の使用で生じた部品の摩耗、疲労破損などの場合。
5. 特殊な場所での使用、目的外使用などによる故障、または損傷が発生した場合。
6. 弊社以外での修理または改造をされている場合。
7. お客さまの誤った方法によるご使用やお手入れによる場合。
8. 火災・地震・塩害・ガス害・風水害・落下・その他の天災地変により故障または損傷が発生した場合。

お客さまへ

- ・ この保証書をお受け取りになる時に、ご購入年月日、ご購入販売店名・住所が記載されていることをかならずご確認ください。
- ・ 修理期間につきましては、商品弊社到着後7日間を目安としておりますが、修理箇所、修理内容によりましてはさらに日数を要する場合があります。あらかじめご了承くださいませ。

ご購入年月日

年 月 日

ご購入販売店名・住所（〒 ）

ココロ、ヨロコブ、テイコブ

Tacaof